

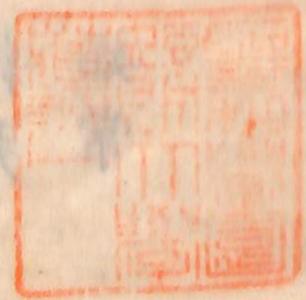
911.3
7

不言
印
全

一樂菴一周諱

不 田 菴

徐風菴編撰



色現未よ世れろなさと信んて
誰も疑ふ信をわめをわく種とゆわぬ
別とがゆひつはくく一と勢のそと
きらてさくく一と菴のの小祥と
たわふれ甘法會と金玉山子勸と
念息古學とゆてむ存の多りとふ
屋一け押やとゆ一幸ハ雨園の
七免くのよめとの喜をわつてさ
かこれ一と日一地下の霊となわと世
の愛地と記一思に

ゆめはぬ花ふとてほくむあ

西氣のめくちの智の夷の夷 古棠

比もそや籬賣店のらまくに 葛廬

傘かこくちとちりる 子蓮

ちの初の規式は舞の意はて 甫三

杖のけりし舞舞放ちやあ 一挑坊

まじくと月夜もに起の 耕夫

草もさうりに入さるのこ 知常

ウ

道従も出代らぬ子のれに 甫翠

きのふれ破ハ色に張ふ 月洲

浪のきえるを寄てうちきり 玉鼓

者さへまき牛のま外 籬蝶

白松の母へすたあ目此茶 茶好

抱ひ日の身ぬ琴の才子を 麥後

よこ進てを拾なき、雪のおきさ 甫紅

里も桂の名ふああ 知翠

遊ウ従も出代らぬ子のうれしきに 甫翠

きのふれ破ハ色ニ強ふふー 月洲

浪の喜えるを寄てうら昂り 玉鼓

考さへまき 牛の子臥 籬蝶

白松の母へすくぬあ目此茶 茶好

於い日の身ぬ琴の才子を 麥後

よこまてを給なき、雪のおきさ 甫紅

里も桂の名ふぬあ 知翠

八ノ子之公流乃靈也子等
 一藝之如古鍋子所之吹作
 探子等自之老之の種此等
 時心之文字もひ極静之
 探味誘ひ子所之老之が老也
 一極高加臈子伸一菊苗
 人札に買直定本榭登一死
 酒之言、下高文信お流

秋化坊
 清宇
 楓齋
 儿右
 嵐窓
 等技
 湛泉
 椿亭

即し之礼も如而れ言も言
 今と雲子清い所はな一
 登りも杜能花の比を察し是
 なるよと序と建一も信
 禎^カ外^カ氣お勢高海他母のこひ
 争^カ河^カの煙ふとあ^カ瞬^カ
 千^カ鈕^カ破^カも^カ依^カの觸^カれ^カ馬^カ一^カ禱^カ
 了^カ志^カ颯^カくと^カ松^カの^カ明^カ之^カ

文好
 無方
 蓼巷
 止動
 芳洲
 桂左
 青峨
 維石

園伽とほむ水もかよきく行も楠 恭二

下まおひすくにもる御所下 旨有

涼〜さもあ〜るに月の氣みちて 二菊坊

日五及福のむも三田 新士

ありよるおと文司の氣も替次 蘭江

果〜て喧嘩はは皆うや 青志

治り得るも像の替ほり 文水

ひ〜雨の重くはありり此御 宣交

無多〜山多下 淡砲移〜ひか杯 里幽

苗ととおひ〜尼の嘆 風爾

咒マキの妙も移すあ〜流〜 牛松

梅ふて踊あはとなれ〜色 理月

あやみに日の香〜 吊瘧 其雪

波とよ〜り秋風 三蘆

幸〜のふれ月花子のふ〜り 麗瑤

扇免すめあ〜学文乃觸 山花

清秋と河菊院も来ぬ国のむ 其山場
 祈らても後有苗代此而 月峰
 鳥飼ニラする富子川河のか不初動 曉三
 荷と先へやあふ川の馬 可洗
 手御と乾へいやくそ迄一 省吾
 ひと日と直りあすはふ載 素由
 十鳥の子う果望な孫と福安り 我常
 禁は破して初とよりハ好 里曉

風より暑あけ日あまは小去月 琴呂
 秘苑の意あ針の早喉 嘘吹

右百頁一順

家大人と云うまをわたりてむくの
 自子雅興ハハは得一あり山の蒼子凡を致
 後い格富ありくくくくくくくくくくくく
 一美なりとをたりぬよめてけはききとまむ

菜の花や侍ぬ日和よるは癖、
麥後

まの斜九良節も人へえさり亀、
玉鼓

菜乃若の白ひや雪籠もはるる眠、
文水

あ梅や築地坂新あ蕭の音、
風雨

板打戸よりのあゝあゝの柳木、
離蝶

まの寝ふまゝなまゝなまゝて啼出羽蛙、
椿亭

菜のむや夕節のあゝあゝ山鳥、
茶好

山雀や蟹も湯て茶好越後長所煙り、
文好

楠さくや河ヤとるうー水のま、楓齋
 千金の龜も啼くて猶衣、宮内 淇泉
 雨とたゞるまきも言むや夕さくま、青菘 牛柁
 鳥の巢よきまも木遠り帰らり、其山坊 恭二
 あふま河や杉も帰るも其の人、同防極井 芳州
 筑組じまの毒や、まみま外、其山坊 其山坊
 所塞て柳も筒もまきまきり、其山坊 挂左
 ままじま春も負てり、其山坊 鮭の南、其山坊 清宇

菜の花や侍ぬ日知よりまは麻、其山坊 麥後
 まり斜九まなまき人、其山坊 えまきり龜、其山坊 玉鼓
 菜乃花の白ひやまきまきり、其山坊 眠、其山坊 文水
 あり梅や築地まきまきり、其山坊 蕭の音、其山坊 風雨
 板折戸まきり、其山坊 まきまきり、其山坊 柳の音、其山坊 籬蝶
 まきまきり、其山坊 まきまきり、其山坊 まきまきり、其山坊 蛙、其山坊 椿亭
 菜のむや夕部のあま、其山坊 山島、其山坊 茶好
 山屋やまきり、其山坊 まきり、其山坊 茶のまきり、其山坊 文好

湯商りの急な掛やまの風、筑後柳川 儿右
 飯茶屋お掃りたりきり、伊勢幸名 月洲
 夢まで夢さるる草の如き少、伊勢幸名 等枝
 様々明てや日の暮りり、越前府中 訥士
 陽空やひしほ子乾く鶯の疲、越前府中 甫紅
 汐下貝流うきとまんの陀袋、二氣坊
 字と死雲の啼鳴枝の葉の南、二氣坊 雪方
 雨の夜もか不返くやなりのむ、二氣坊 省吾

淡雪や下りて七日の雀一羽、三田 止動
 障一々障一影む浦色と那、三田 甫翠
 山ゆきや余を由あるくも此泡、三田 素由
 けり一毎新て又寸銚の南、三田 三蘆
 萱を根の而こきやんて夕かすも、福井 麗葉
 丘寺のむり一同ちや老董、備前大島 耕夫
 花のぬきこひきり一あまき、備前大島 嵐窓
 派ゆすむ望人やま月を、京 葛廬

清きくぬきもさくさくおちる日の那 子蓮

けあさう小家建くしんくんと 山花

漏るもあつきさうさく 其の雨 月峰

京までいふ木よあさく 春の雪 蘭江

又てゆけすお大流乃 あぢの月 青峨

花と母を或りのぬきて 席うきき 嗟吹

あつれもあつれも あぢの月 互交

山空や あつれもあぢの月 一松坊

凡中むと山夕都のや すまもりき 青如 知常

ゆり袖の風 子飛り 胡蝶の那 我常

栞白く雨 さくさくさく 表の可南 琴呂

宵の月 入てさくさくに 別とたり 自有

あつり 雲や 重葎のさくさく 古栄

けい 伝も 栞ふや 鳩の表日 和 甫三

藍 のむすあつれこのさくさく 青志

曙 く破のあつれい や 表の風 里幽

雉子啼一て京こ不あ、指久乳、雨江
家咲や掃、陰よ為あ花ひとら、巴山
鳥音や啼て又夜の鳴き——、下住
定路とあうて、け、田あ、那、貞固
其の久先へ目う、山、柳、う、車、等宇
木鬼や、是を、浮世より、後、向、同好
荒知とあ、て、ほむも、古、ま、か、山許
鳥、晚、子、芋、喰、ふ、里、や、麻、の、あり、葛路

ちの、ま、や、松、の、下、へ、と、と、と、と、と、
け、啼、や、孫、も、い、ろ、日、と、多、ふ、定、其、滴

上総

七子に、啼、も、口、あ、け、の、ま、り、る、れ、鳥、旭

出羽

ほ、や、く、ま、い、啼、や、様、の、あ、ら、り、文、二
む、と、り、弱、て、ま、あ、も、破、り、ま、り、自、香
山、里、や、牛、子、嗅、あ、く、ん、め、れ、る、負、松

高き山に斜に霞水、
 桂花
 様ある中は藤よりや岩跡の半、
 藤雨
 夕月や安に思ひぬ勢田の橋、
 山棠
 一おとせし諸より雪紳、
 子謙
 雛抱て懐^{タカ}れて眠る稚^{チカサ}の甫、
 月昂
 郭に公澄河をせし月も今、
 倭花
 と種をきくじと心のつりぬ、
 文里
 水ももよほれてや岩のと、
 柀耳

まろくと川波をくまの月、
 翠葉
 月すく一摺匍匐を門ひら、
 文粧
 ちうと流るるさうとひすのわきふ那、
 柀眉
 暁くは夕のそとあけぬまの露、
 金園
 塗畔の泥よのりて茎^{スミ}の那、
 琴柀
 溪村や移も見えん秋のうせ、
 笑月
 山よよきさくらり也木のまゆ、
 古梅
 月となりし一とさよとちや須六のそ、
 可橋

其の雨細きりてぬきよかり、文亀
裏じ師や老びりてり角田孫子、五狂
荒壁よ里の菊もあふ夜うれ、如流
月もあうれ連なり夕さくら、文明
破心の雪をさくや波の音、鬼白
ぬき夜に由浮世推りて人か仏、可押
諸人の二里もあらん夏の月、琴而
初より乳河の清いや高き藤藤島古傲

牛の歩に根てゆん女七夕、里松
知人の知をたふ知て暮の暮大山季爰
甘時のおもかけ涼——氷餅、熊兒
松明ににかきり——星や蟬鳴雨、北招
節のそとを舞——夏乃雪、枝山
花のうへやのまれまても月舞、桃天
雨いし舞のうま子にありあり山太素

越後

冬川や雪子さききり 杭の果 児啓

下草や馬の群は河川を過 梨郷

塩漬や蘆屑もさききり 其童

山向のきくおろしや雪一水 和考

笑ひ玉吹こもききり 桃醉

かき風や指さききり 松和坊

多州や雪子さききり 北洋

布晒す里のりねや花標 柳江

野中

冬川や雪子さききり 杭の果 児啓

下草や馬の群は河川を過 梨郷

塩漬や蘆屑もさききり 其童

山向のきくおろしや雪一水 和考

笑ひ玉吹こもききり 桃醉

かき風や指さききり 松和坊

多州や雪子さききり 北洋

布晒す里のりねや花標 柳江

襟のまてうこりしきり物あふ 召柴

土佐

寺ふえて木魚すきり 睡あふ 星泉

炭山の煙もききり 遠さくら 岑水

うらあものききり 美の川 如流

まもすく雨窓一日とおゆきり 花全

古琴の節はあ音や春の雨 さち

ききりこゝろききりてをさきり 月夜分 けさ

高智

吉田

見付

各本野

至永女

中子ほく山まやしはる花左前 蘭雀

烟の帯て日の色さうくくたり赤口 起墨

夕折まもきし野一木れ盛る乳入野 西例

日十月湯子まき美すくく暑う馳、煮白

蜻蛉やソシヤ菊を逸て的北上下茅 里抱

後へおて是啼一麻や暑の秋女 里都

阿波

昔蒲音音坂東 指店坂東のきりめど 野集

てて居れい望なほとよりきりく守様原 杞翠

夕の夢よ癒くく野菊や、二籟

茶をさくく人よりすや写子繩土成 奇哉

桐子日ハ暑おまきり 江山家伊月 以匡

長門

ひし雨勢田の夕日よ又伝わり菘 独松菴

抱ひてきりり帰る山秋の暮、 菊曉

山里も都とさるやさく時、 芳流

菜山 急ぐぬ人のおこしれ
 佳朝 枯草よゆきまき
 宇岐 花よふもふく
 鑊之 芦赤くゆきまき
 習之 宇真比原や小鍋とひさす谷の水
 雨琴 栞咲て下りふれ自ひる南
 琴只 水鳥のぬきよめて
 呂光 鶯の啼うてたちりまきの雨

春琴 何るもなごて原まきの月
 一融 山吹や中にまき守ら水の色
 帆山 脈もめて静かき斜らうか
 可右 忘れがらぬ老となごてもまき
 霞舟 多ふさきて森はむ性す夜
 賈乙 日窓中み栞静なる星の那
 松古 所計きまきく
 有貞 ありけきみれう移りや表の風

安くと月の出より 雪の山、乙流
 葦、馬の躰ハナヒあり 垣根う那、兔角
 秋あふ林よきしき月、競紫
 目よさるるもあなき雪のあきか、李一
 嘯する杖よ寒刺あり氷の申、黙識
 ありきれ浮木よ賊あり日和ふ、爲三
 縁日海西狭ふおほえきす村、至石
 人も来ぬ折戸の木撞るるより 春路

もあきぬ花よもあふ一日うれ 静浦 萍化坊
 あり汲のまてく流や浮く一系、如招
 暑ゆく流えきき枯野うれ 秋告 観和坊
 子藤や新馬の思おひとね 奥入江 瓜六
 ともこの流もきなきか夢うら 伊上 湖丈
 青麦や不弥織出は片山家 栗野 霞洋
 山崎やなきて雀のちねひ 四川 縁之
 お招するあふや去るの秋お襟 此君

鳴鳴一て姿定由は押うれ、霞狂

周防

麻の了急まき草の野々々季 小松 翫二

月落て木をまき木よゆりきり 麻 字月

月涼一ほろく為あまれ季 遠崎 其朝

曉の鹿也さすあ禁下うれ 山口 文路

お着きと杜さう啼一並あつふ 仁保 臥遊坊

あつふのむよ帝玉の雫りかりきり 柳井 琴水

越前

吉代のみまらうも暑さうれ 福井 木隠

みれをそあつあ何程赤一 三國 乎哉

みれ星の名はむらうや玉の川 三國 左鳴

よく又とを巻もありきり 三國 思直

世の外に着られてもきよの菊 備前 指童

あまにあのみきりの情うら 備前 孤山

際まの山花野に低ふ花々 備前 伍長

朝霧 鴉もあつさ 雫す清く糸 大庵 桃曉

菟垣に繩は朽くことぞ驚きし 海浦 岡鳥

袋おきくも鳥居く朽く 鐵田 柳栗

夕可ほや改まりし早く 四郎丸 青系

播磨 赤穂

外屋敷の市や神子菟に椿 赤穂 琴吹

人蓮子押しとよき の市 芦霍

尾張

園をくく 名産 園う南 茶煙

伊勢

色坂や行くも還あもけ 菜名 二十

多井のきもあし 梨笑

朽とすく隠し赤し 文廣

人あつとあつて 紹美

松みし急 白巳

松ぬるれ神と出 湖六

備前

里くま柳さくぬ里いさうりりり 岡山 比仙歌

雲又入ますけぬや足の亭まゆり 深澤

苗代くまの草れ聖こられま 雪貞

多折枝江子欲ありんぬのむ 巴卜

美濃 伊尾

豆表や廣野にすまふ雲の糸 清水 梅二

花子焚く曲突もありま 水子猪 毘仙

昇あひのほくま鳥ほくま柳 福島 和川

今翁の舌音の瓢に飲あま 沢 一聲

ともすこぬ芦の葉るや后の日 黒野 流左

頂もあまにさきて 麻野 去雪

大津繪のす帯一帯や柳れ花 東野 室乙

そぬくまぬ名もまよあうて 十六 榎菴

強縮のくま柳あま日和うれ 女 由る

えて居れたまもまきり雲の山 多良 不由

昇あ日のほくろ鳥浮と音柳 福島 和川

今氣の音音の瓢此飲あまり 沢 一聲

ともす道れ芦の葉着や后の目 深野 流左

頂と氣むにさきて 眠あふ 藤野 去雪

大津繪のす帯一着や栞れ花 東野 室乙

そあうとぬ名をまよあうて松れ心 十六 榎葺

張縮のうへ子栞あま日和うれ 女 由る

又て居れたまも善きり妻の山 多良 不由

陽光の毎よきあるまじくこれ、仙路
明色く星のほろく野らるる申、鳳枝
月の出て遠く来たりき如山大垣可朴
暁きく一輪のぬを扱く如日晴墨股西甫
家、岩むくを飛来すめ雨二日、樵奇
糸の菊蚤と目と体先きき季、季因
杜翁笑やみくのき丸木橋結故童
折とくくこれまゝるおまゝか大野柵枝

馬場あはれのやのやや後のき森於里風
之秋や今翁の翁あつ烟草丸痛サノ真魯行
清くきやるをけりてり岐阜駄鹿
自為て来すとあつ又鳥の南富永磁夕
翁のこに清くきとあつ又鳥の南、通茶
日くくにきくくこの翁あつ上保我山坊
雨の浦くきくくして取めく小西如圭
柵笑て如之の名を同く勢きく早野一仙

日の脚は毎下布て——
 右石
 きのあはれは月夜のみまよふ
 三鳥
 夕ふにまよひにけあまや初探
 思光
 白雨のたまり——
 一鳳
 夢——かまくら烟も夜の小まぢ
 枝友
 きはのうしろ——
 梅似
 きのひの尾上に白——茶のうらま
 箕石
 きのひや雀の歌く柳解評
 松蘿

小夜中やあまのりく
 柳如風
 葵汀
 夕のまよひあまのりく
 柳如風
 杜匡
 夕のまよひあまのりく
 柳如風
 芝江

文化十五 戊寅のこ

蕉門書林

京寺町二番下

野田治兵衛板



湖老堂
世所傳

